

幼稚園名：中央区立月島幼稚園 所在地：中央区月島1-9-7  
 園長名：太田 禎子  
 幼児数：117名 学級数：6学級  
 教員数：15名（幼稚園講師・養護教諭・特別支援補佐員含む） 職員数：2名

## 1 重点目標の達成状況及び取組状況

### ○アンケート実施状況

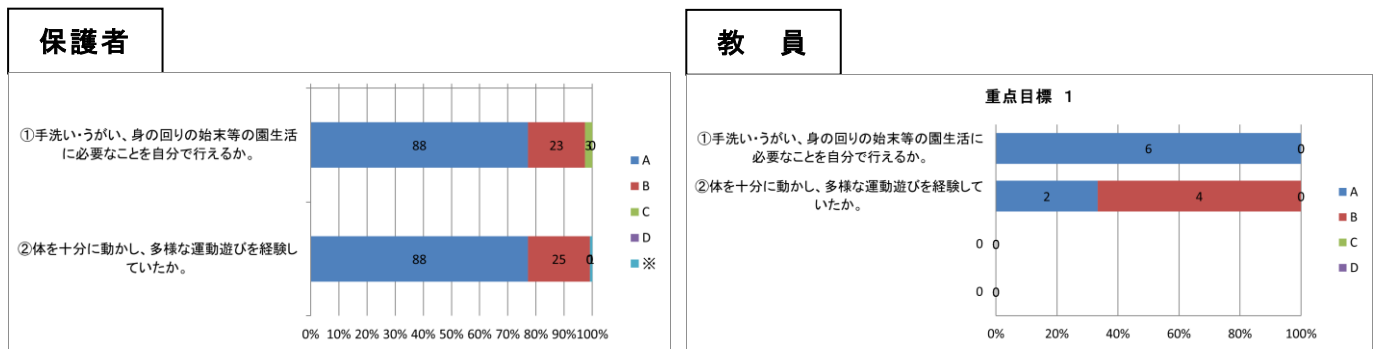
- ▶実施時期 12月
- ▶教員6人中6人回答 回答率（100%）、保護者117人中114人回答（97%）

A 十分達成している B 達成している C 改善を要する D 緊急に改善を要する ※わからない

評価指標の姿を3歳児・4歳児・5歳児の発達に応じて具体的に表記して、保護者アンケートを実施した。3つの重点目標において、A（十分達成している）・B（達成している）を合わせると、保護者・教員とも全て9割を超え、概ね目標を達成し、保護者より今年度の教育活動に理解と支持を得たと考える。

### ●重点目標1 幼児の健康な体づくりを推進する。

- 評価指標：①手洗い・うがい、身の回りの始末等の園生活に必要なことを自分でできるか。  
 ②体を十分に動かし、多様な運動遊びを経験していたか。



### 【重点目標1について】

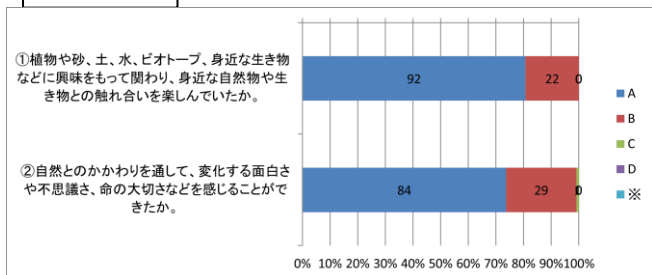
- ・評価指標①では、生活習慣の定着について、Aの割合が高い。新型コロナウイルス感染症予防のために、教員も高い意識をもって取り組んでいた成果であると考えられる。引き続き、家庭と連携を取りながら、生活習慣の自立を促していく。
- ・評価指標②では、保護者アンケートはAの割合が高いものの、教員の自己評価ではBの割合が高い。各学年、運動遊びを計画的に行っていたが、多様な動きを引き出すための環境という点では、改善の余地があるという反省が読み取れる。次年度の指導に反映させていく。

## ●重点目標 2 自然とのかかわりを通して幼児の体験や心情を豊かにする。

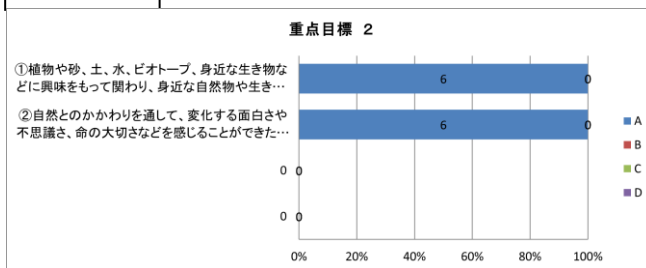
評価指標：①植物や砂、土、水、ビオトープ、身近な生き物などに興味をもって関わり、身近な自然物や生き物との触れ合いを楽しんでいたか。

②自然とのかかわりを通して、変化する面白さや不思議さ、命の大切さなどを感じることができたか。

### 保護者



### 教員



### 【重点目標 2 について】

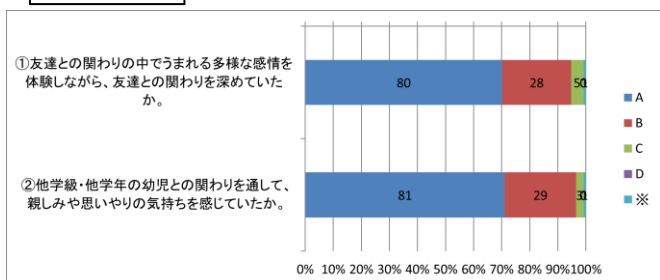
- ・評価指標①では、保護者アンケートも教員の自己評価も A の割合が高く、全員が A・B「達成している」と回答している。昨年度の反省を踏まえて、今年度は自然環境の工夫について園内研究で取り組んだことにより、環境や指導の改善が図られたことによる成果といえる。
- ・評価指標②では、自然環境へのかかわりを通して体験した心の動きについて、9割以上の保護者が A・B「達成している」と回答している。教員も環境や指導の改善によって、幼児が自然環境に対して積極的に関わる姿やその関わりを通して心の育ちを感じることができた。今年度取り組んだ内容を指導計画に反映させて、引き続き実践していく。

## ●重点目標 3 一人一人の心の育ちを捉えた教育を推進する。

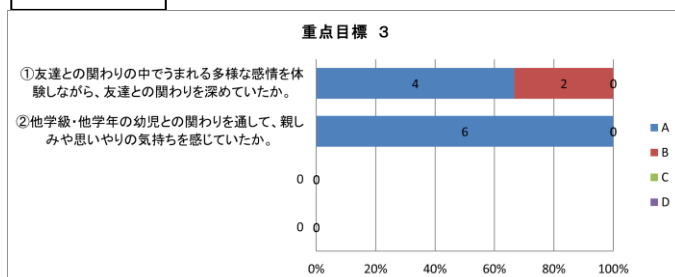
評価指標：①友達との関わりの中でうまれる多様な感情を体験しながら、友達との関わりを深めていたか。

②他学級・他学年の幼児との関わりを通して、親しみや思いやりの気持ちを感じていたか。

### 保護者



### 教員



### 【重点目標3について】

- ・評価指標①の友達との関わりについては、9割の保護者が「達成している」と回答しており、園生活の中で様々な気持ちを体験しながら関わりを深めていることを理解していただけている。一方、Cと回答している保護者も数名いる。友達と関わりについては、一人一人課題も異なるので、幼児一人一人に応じて指導ができるようにする。保護者に園での姿を伝えたり、家庭での様子を聞いたりして、家庭と園が連携し、協力して共に育ちを見守っていけるようにする。
- ・評価指標②では、教員の自己評価で全員がAと回答しており、他学級や他学年と関わる機会を意識的につくり、その中で幼児が親しみや思いやりの気持ちをもてたと評価している。毎日の朝会や毎週の全体会で、学年間での情報共有を行っていることが、他学級・他学年の幼児の実態や活動の目的を把握し、連携することにつながっていると考える。

## 2 重点目標以外の自己評価と保護者による全方位的な評価における達成状況及び達成のための取組状況

### (1) 教員の自己評価 結果と分析

- ・「学校間の連携」、「研修」、「子育て支援」で課題が見られた。また、指導内容については、「主体的に行動する力の育成」と「環境の構成」の項目で課題を感じている教員が多い。幼児の実態として、指示を待っていたり、失敗の可能性があることに取り組まなかったりする姿もある。幼児の主体性と教員の意図のバランスに配慮した環境構成と援助の工夫を引き続き学んでいく必要がある。
- ・学校間の連携については、今年度新たに「保幼小連携日」を設定し、同じ学校区の保育所・幼稚園・小学校が集まって小学校の授業参観や協議会を行うことができた。学びのつながりを意識できるよう継続していく。また、新型コロナウイルス感染症の状況が改善し園児・児童の交流が可能になった際に実施できるよう、連携を図っていきたい。
- ・研修については、園内の研修機能を強化するために互いの保育を見合い協議する機会を増やし、OJTや園内研究会をより充実させていく。
- ・HPについては、見やすく改善され、更新回数も増えた。地域向け・保護者向けそれぞれの情報発信の方法について工夫するとともに、子育て支援については、未就園児への施設開放「つきしまランド」の内容の充実に向けていく。

### (2) 保護者評価結果と分析

- ・全ての項目において、9割以上の保護者が、4「よくあてはまる」・3「あてはまる」と回答している。特に、「生活習慣の定着」・「運動や自然環境づくり」・「感染予防」・「情報発信」の項目では昨年度よりも4の割合が増加している。「相談機能」の項目については、4の割合がやや下がっているので、相談機会の充実や相談しやすい雰囲気づくりに努めていく必要がある。自由記述欄の中では、開園90周年記念行事への取り組み、日々の温かく細やかな指導や新型コロナウイルス感染症対策への感謝の言葉を多くいただいた。もっと保育の内容や我が子の様子を知りたいというご意見もあったので、保護者への情報発信について、さらに工夫していきたい。

### 3 今後の改善方策

今年度の評価を踏まえて、次年度は、幼児の主体性を育む環境構成と援助に重点をおき、保護者への発信方法についてもさらなる工夫をする。また、開園90周年記念行事を通して家庭や地域と共に祝った経験を生かし、園や地域への親しみの気持ちを継続して育んでいく。